



未来を照らすソーラーパーク

Y M C A 水前寺幼稚園の環境への取り組み

Y M C A 水前寺幼稚園の屋根に設置されている「水前寺おひさま発電」が「くまもとソーラーパーク」認定施設に選ばれ、2月5日(木)にグランメッセ熊本で授与セレモニーが行われました。今回は、園長の中島修子さんに園での取り組み方や、行政や企業との関わり方についてお話を伺いました。

幼稚園のソーラーパークから、地域のソーラーパークへ

幼稚園の玄関のすぐ左には、屋根の太陽光発電で集めた電気の量をランプの数で示す表示板があります。園児が見やすいようにと、園児の視線の高さに設置しました。登園してきている「今日は雨だからランプがついていないね」「曇りだけどいっぱいついてるね」と園児同士が会話をしている光景を見かけるようになりました。

水前寺おひさま発電は、2007年1月に点灯式を行い、今年で3年

地球にも人間にもやさしい太陽光発電システム

熊本県内で、発電能力が10キロワット以上の太陽光発電システムを導入した企業や団体を県が見回り、一般の見学先として開放するなどの条件を満たした施設を「くまもとソーラーパーク」として認定しています。最新の認定月である今年2月の段階で、26の施設があります。「Y M C A 水前寺幼稚園のように、子どもがいる施設に発電設備があると、太陽光発電という意識が幼い頃から身につくと思います」と熊本県産業支援課の松本淳一さん。「太陽光発電



水前寺幼稚園園舎に設置された太陽光発電システム

システムは環境に優しいだけでなく、電気代のカットにつながります。国の補助金の制度などもありますし、興味のある方は、認定施設を見に行ってくださいね」と話していただきました。



アースウィークくまもとオープニングでは元気な歌声を披露

取り付ける前は「ろうかを走らない」など、エコには直接関係ないことがほとんどでした。しかし最近では、使わない部屋の電気は消す」「コップ一杯の水で歯を磨く」といった目標が多くなりました。

目を迎えました。点灯式の年に通っていた園児は卒業しましたが、子どもたちの「節電」に関する意識は年々高まってきていると思います。園児には毎月それぞれに生活目標を決めて提出してもらいますが、表示板を

太陽がつくってくれる電力は、お金で買ったものではなく、めぐみとして与えられたものであることを感じ、電気を大切にすることを育まれています。子どもの頃に経験したこと、学習したことは、大人になっても習慣として残っていきま

知識は、家族に伝えてくれるんです。「エコ」といっても、具体的に何をしたらいいのか分からない方も多いと思います。私たちもおひさま発電を設置するにあたり、熊本市の環境ネットワークくまもとやエコパート

子どもにも「もったいない」の心を「エコ・マザー」がやってきた!

「エコ・マザー活動」は、九州電力(株)環境部のCSR活動。九州各県の県庁所在地などで活動する2~4名のエコ・マザーが、幼稚園や保育園を訪問し、園児たちに、ペープサート(紙人形劇)・環境紙芝居や手作りのツールを使って、環境問題への「気づき」となる情報を分かりやすくお話しします。

「Y M C A 水前寺幼稚園には今年2月に行きました。園内に太陽光発電があることもあり、子どもたちが率先して使わない部屋の照明を消すなど、エコへの関心が高いと感じ



子どもたちは楽しく環境について学びました。

ナーくまもとから講師を招き、職員が勉強会を行いました。温暖化で雪が溶けているエベレストの写真などを見て、少しずつ理解を深めていってほしいです。勉強会の内容をもとに、新入園児とお母さんを対象に、おひさま発電の説明と合わせて、「買い物にはエコバッグを」「車はなるべく使わず、バスなどの公共交通機関を使いましょう」ということも話しています。また、幼稚園は紙を使うことが多く、その分紙のゴミも多くなります。資源ゴミに出したり、使用量を減らしたりするよう、職員一同で取り組んでいます。

今では当たり前前のことですが、なるべく多くの人に聞いてもらいたい、考えてもらう機会をつくるのが大切だと思えます。今回、ソーラーパークとして認定されたことで、幼稚園の施設から、地域の「おひさま発電」として、一般の方にも見ていただく機会をつくっていきたくと考えています。

ました。太陽光のエネルギーで電気がつくられることを学習できる環境づくりは大切ですね」と、エコ・マザー熊本の梅本由賀さん。子どもに純粋な心に、エコの心が芽生えたようです。

問い合わせ先: エコ・マザー運営事務局(子づれ) DECHA・CHA・C H A (内) TEL 092-1751-8830

わたしと聖句

マタイによる福音書第5章45節

父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

日本福音ルーテル健康教会 小泉 基

「安心して悩め」

あたりまえのことだが強調したいのは、わたしたちの人生に点数をつけることがあるとしても、それは1点から99点の間のことになるに違いない、ということだ。大切なのは、0点の人間も100点の人間もいない、ということである。

ルターは、「義人はいない、ひとりもない」と言った。彼は若い頃、厳しい修道院の中で徹底的に自己を究めようとしたが、その結果は、どこまでいっても神の前に罪人ではない自分の発見でしかなかった。だからわたしたちは所詮、どれだけ頑張っても得ることが出来るのは99点までしかない。

またそれと同様に、わたしたちはどれだけダメな人生を送っても、0点の人生というものはありえない。神さまが作られたわたしたちであるのならば、どんなに失敗しても、どんなに人に迷惑をかけても、ただの0点ということはあるにないのである。

だからわたしたちは、今日も明日も、安心して悩み、悪あがきを続けていよう。